

## 新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和4年第43週 令和4年10月24日(月) ～ 令和4年10月30日(日)

今週： 令和4年第44週 令和4年10月31日(月) ～ 令和4年11月6日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	陽性者数	①総数	3,126人	5,420人	↑	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 <sup>※1</sup>	2,676人	4,606人	↑		
		セルフテスト陽性 <sup>※2</sup>	450人	814人	↑		
	②対人口10万人（総数）	203.0人	351.9人	↑	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	1.21	1.73	↑	18.0	令和4年第1週	
④陽性率 <sup>※3</sup>	37.7%	51.3%	↑	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤入院患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 <sup>※4</sup>	61人	122人	↑	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	12.6%	25.2%	↑	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥重症患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 <sup>※4</sup>	1人	3人	↑	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	1.4%	4.3%	↑	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

### <モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

## <変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週	直近1週間	累計
	R4.10/24 ~ R4.10/30	R4.10/31 ~ R4.11/6	R3.3/11 ~ R4.11/6
$\alpha$ 株（アルファ）	0件	0件	203件
$\beta$ 株（ベータ）	0件	0件	0件
$\gamma$ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
$\delta$ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	5件	0件	483件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	1件	7件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	44件	17件	488件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

## <評価>

### 第44週（令和4年10月31日～11月6日）

第42週は入院中の重症患者数が1人と41週と変化がないことを除き、各項目とも第41週に比し減少となっていました。第43週（前週）は、入院中の患者は減少、入院中の重症患者数は1人と変化がなかったものの、陽性者数は医療機関報告・セルフテスト陽性ともに増加し総数も増加、前週との増加比は1.21と1.0を越えました。第44週（今週）は、陽性者数、入院患者数、重症入院患者数いずれも増加に転じました。

### <感染の状況：直近1週間>

- ① 陽性者数は、医療機関等からの報告数は第39週3,198名から、2,484人→2,348人→2,203人と4週連続して減少となっていました。第43週（前週）は2,676人、第44週（今週）は4,606人と2週連続して増加となっています。セルフテスト陽性者数は第39週495人から、399人→459人→378人と推移していましたが、第43週（前週）は450人、第44週（今週）は814人と2週連続して増加となっています。医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第39週3,693人から、2,883人→2,807人→2,581人と4週連続して減少していましたが、第43週（前週）は3,126人、第44週（今週）は5,420人と2週連続して増加しています。
- ② 対人口10万人あたりの新規陽性者数は、第39週239.8人から、187.2人→182.3人→167.6人と4週連続して減少していましたが、第43週（前週）は203.0人、第44週（今週）は351.9人と2週連続して増加しています。
- ③ 前週との増加比は、第39週0.81から、0.78→0.97→0.92と推移し4週連続して1.0以下となっていました。第43週（前週）は1.21、第44週（今週）は1.73と2週連続して1.0を越えています。
- ④ 検査陽性率は、第39週40.2%から、36.2%→36.6%→34.8%と推移し、第43週（前週）は37.7%、第44週（今週）は51.3%と増加しています。

### <医療提供体制等の負荷：報告日11月6日現在>

- ⑤ 入院中の患者数は、令和4年第1週23人から毎週増加、第7週335人をピークとして第24週24人まで減少しました（第6波）。第25週41人から毎週増加し第7波と称されるようになり、第31週368人をピークとしてその後減少、第38週105人から、99人→92人→80人→72人、そして第43週（前週）は61人と、12週連続して減少していましたが、第44週（今週）は122人と増加に転じました。

入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして第24週4.9%まで減少しました（第6波）。第25週から毎週増加しましたが、第31週（第7波）75.9%をピークとして減少が続き、第38週21.6%から、20.4%→19.0%→16.5%→14.8%、そして第43週（前週）は12.6%と13週連続して減少していましたが、第44週（今週）は25.2%と増加に転じました。なお、確保病床数は現在合計485床となっています。

- ⑥ 重症入院患者数は、令和4年に入った第1週は0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加し、第6波のピークとなりました。その後減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者0人が5週連続しました。しかし、第26週から増加が続き、第32週（第7波）14人となりました。第33週からは毎週減少し、第38週4人から、第39週3人、第40週から第43週（前週）の4週は1人となっていました。第44週（今週）は3人と増加に転じました。

重症病床使用率は、本年第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%が第6波のピークとなり第9週2.9%まで減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。しかし第26週2.9%から増加が続き、第32週の20.3%を第7波のピークとして減少し、第38週5.8%、第39週4.3%、第40週から第43週（前週）は1.4%となっていました。

第 44 週（今週）は 4.3%と増加に転じています。なお、重症者の確保病床は現在 69 床となっています。

### <変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第 44 週（今週）は、オミクロン株 18 件中 BA.4 が 1 件、BA.5 が 17 件となっています。

本市における陽性者数は減少傾向が続いていましたが、第 43 週（前週）から陽性者数が増加に転じ、第 44 週（今週）は入院中の患者数、入院中の重症患者数も増加に転じています。これをもって再拡大の兆しとは直ちに言えないと思いますが、今後の動きに注意していく必要があります。特に入院患者数、重症入院患者数も増加傾向にあり、十分注意していく必要があります。重症患者ができるだけ発生しないように、発生しても医療で受け止められる（入院ができる、経過観察ができる）体制を取れるようにしておくことは極めて重要なこととなります。しかしそのためには、軽症であっても爆発的な感染者の増加はできるだけ避けるようにしなくてはなりません。

通常的生活が戻りつつあることはとても良いことですが、今の生活の状況を維持し、さらに良い方向に向けていくためには、お一人お一人に基本的な感染症の予防に気を付けていただくことが大変重要になりますので、よろしく願いいたします。どちらかへお出かけになる機会や集まりの機会も増えてきていると思いますが、やはり感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされますようお願いいたします。一方、戸外や風通しの良い所、人と人の間隔が十分あいているような所では、マスクを外し、秋空の良い空気を吸うことも健康のために大切です。

一方、ここ数年極めて少数となっていた一般的な感染症が顔を出し始めています。これからは冬の食中毒の走りとなるノロウイルス感染症、毎冬話題となるインフルエンザなどがあります。しかしこれらの感染症も、新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感じる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要ですので、かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。

検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

新型コロナワクチンについて、本市においてもオミクロン株対応ワクチンの接種が始まっています。接種対象となっている方におかれましては早めに受けていただき、免疫を強固なものにしておくことを強くお勧めします。また様々な事情でワクチン接種ができない方におかれましては、感染予防に関する注意は強めにして下さいますよう、よろしくお願いいたします。

インフルエンザワクチンも開始されています。高齢者の方等を対象とした定期予防接種については川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000017625.html>) をご覧いただくか、川崎市予防接種コールセンター（044-200-0144）にお問い合わせください。任意接種としてインフルエンザワクチンの接種を希望される方はかかりつけの先生や医療機関などにお尋ねください。

子供さんを中心とした定期接種のワクチン、高齢者の方の肺炎球菌ワクチンなどもお忘れなく受けておくことを強くお勧めします。